

# 平成30年度 JA佐渡 おけさ柿病虫害防除暦

回数	散布時期	主な対象病虫害	ボルドー体系						10a散布量(手散布0はSS散布)	無ボルドー体系						備考欄(使用上の注意など)
			薬剤名又は展着剤	散布濃度	収穫前使用時期	使用回数	水100Lあたり重量	10a散布量		薬剤名又は展着剤	散布濃度	収穫前使用時期	使用回数	水100Lあたり重量	10a散布量	
臨時	3月末まで(休眠期)	カイガラムシ類	ハーベストオイル	50倍	発芽前	—	2回	250(200)	ハーベストオイル	50倍	発芽前	—	2回	250(200)	・発生期では必ず散布する。粗皮けずり後に散布すると効果が低い。 ・落葉は3月中旬までに集め、埋める。 ・薬剤散布は無風の暖かい日を選び、主枝、垂主枝の分岐部分にたっぷりかける。	
臨時	発芽前～発芽期	コカイガラムシ類	スタークル顆粒水溶剤(樹幹塗布)	2倍	発芽前～発芽期	1	1	1樹(20～40g/樹)	スタークル顆粒水溶剤(樹幹塗布)	2倍	発芽前～発芽期	1	1	1樹(20～40g/樹)	・前年フジコナカイガラムシが多発した樹やその周辺樹に対して塗布する。(直前に塗布する箇所の粗皮を削り取る。) ・発芽期の塗布が効果的なので、生育を診て実施すること。 ※使用方法についてはJAの指導を受けること。	
臨時	5月上旬(展葉初期)	オオカブト類、ハマキムシ類、アザミウマ類	ダイアジノン水和剤34	1,000倍	45日	4	4	100g	ダイアジノン水和剤34	1,000倍	45日	4	4	100g	・強風等での枝葉が傷んだ場合は、ベルコート水和剤1,500倍(14日/3回)を散布する。(単用散布) ・害虫の発生状況により、多発の場合散布する。	
臨時	5月中旬(新梢停止直前)	カキハタムシ類、アザミウマ類、チャノキアザミウマ	コテツフロアブル	4,000倍	14日	2	2	25ml	コテツフロアブル	4,000倍	14日	2	2	25ml	・フジコナカイガラムシ多発園では77ロード水和剤1,000倍(開花期まで2回)を単用散布する。注)開花後は葉害のおそれがあるので、必ず開花前に散布する。	
1	5月下旬～6月上旬(開花直前)	ハマキムシ類、アザミウマ類、カキハタムシ類、落葉病、うどんこ病、灰色かび病、炭疽病	ディアナWDG	10,000倍	前日	2	2	10g	ディアナWDG	10,000倍	前日	2	2	10g	・アザミウマ類の飛来時期となるので、散布時期が遅れないように注意する。 ・ディナに替えてトッジン水和剤1,500倍(45日/2回)でもよい。	
			オンリーワンフロアブル	2,000倍	前日	3	3	50ml	オンリーワンフロアブル	2,000倍	前日	3	3	50ml	・落葉病の感染期に入るので、散布ムラがないようにたっぷり散布する。	
2	6月中旬	アザミウマ類、ハマキムシ類、フジコナカイガラムシ類、カキハタムシ類、落葉病、すす点病、炭疽病、うどんこ病	トクチオン乳剤	1,000倍	75日	2	2	100ml	トクチオン乳剤	1,000倍	75日	2	2	100ml	【落葉病重点防除期間(6月中旬～7月中旬)】 前年発生場所は特に注意! ●散布ムラが出ないように丁寧に散布し、防除間隔を14日以上空けない。 ●防除効果を高め、アザミウマ類の発生を低下させるため、新梢管理を丁寧に行う。 ・カイガラムシの発生が多い場合は、モスピラン顆粒水溶剤4,000倍(前日/3回)に薬剤を変更する。 ・スミチオンの高温散布時は葉害が発生する恐れがあるので注意する。	
			2-10式ボルドー	生石灰 2-10式 硫酸銅	— —	— —	— —	1,000g 200g	2-10式ボルドー	生石灰 2-10式 硫酸銅	— —	— —	— —	1,000g 200g		
3	6月下旬	カキハタムシ類、カキハタムシ類、フジコナカイガラムシ類、イガ類、落葉病、うどんこ病、炭疽病	スミチオン水和剤40	1,000倍	45日	3	3	100g	スミチオン水和剤40	1,000倍	45日	3	3	100g	・この時期以降、高温時の散布は葉害発生の可能性があるので注意する。 ・すす点病感染時期のため、新梢管理を行い通風採光をはかる。	
			2-10式ボルドー	生石灰 2-10式 硫酸銅	— —	— —	— —	1,000g 200g	スミチオン水和剤40	1,000倍	45日	3	3	100g		
4	7月上旬	カキハタムシ類、カキハタムシ類、チャノキアザミウマ類、カキハタムシ類、アザミウマ類、落葉病、すす点病、炭疽病	MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	14日	2	2	50g	MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	14日	2	2	50g	・カキハタムシ多発園では77ロード水和剤1,500倍(30日前/3回)を単用散布する。 ・降雨が多い場合は、バイオネクト1,000倍を追加散布する。	
			2-10式ボルドー	生石灰 2-10式 硫酸銅	— —	— —	— —	1,000g 200g	MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	14日	2	2	50g		
5	7月中旬	カキハタムシ類、アザミウマ類、落葉病、すす点病、炭疽病、うどんこ病	キラップフロアブル	2,000倍	7日	2	2	50ml	キラップフロアブル	2,000倍	7日	2	2	50ml	・この時期以降、高温時の散布は葉害発生の可能性があるので注意する。 ・すす点病感染時期のため、新梢管理を行い通風採光をはかる。	
			2-10式ボルドー	生石灰 2-10式 硫酸銅	— —	— —	— —	1,000g 200g	キラップフロアブル	2,000倍	7日	2	2	50ml		
6	7月下旬	カキハタムシ類、チャノキアザミウマ類、落葉病、すす点病、炭疽病、うどんこ病	テルスター水和剤	2,000倍	14日	2	2	50g	テルスター水和剤	2,000倍	14日	2	2	50g	・天候(梅雨明けが遅れる、降雨が多い)や生育状況(早い開花など)で散布間隔が空く場合に実施する。 ・乾燥が続く場合は、生理障害対策のため灌水を実施する。 ・以降ハスモンヨトウが多発する場合は、サムコルフロアブル10 5,000倍(前日/3回)を混用散布する。	
			ベルコート水和剤	1,500倍	14日	3	3	66g	テルスター水和剤	2,000倍	14日	2	2	50g		
7	8月中旬	カキハタムシ類、チャノキアザミウマ類、フジコナカイガラムシ類、コカイガラムシ類、落葉病、すす点病、炭疽病	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日	3	3	50g	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日	3	3	50g	・周辺に水稲がある場合は農薬が飛散しないよう十分注意すること! ・9月中旬以降のカキハタムシ対策として薬剤散布する場合はテルスターフロアブルの6,000倍(3日/2回)とする。	
			オーソサイド水和剤80	1,000倍	7日	5	5	100g	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日	3	3	50g		
8	9月上旬	カキハタムシ類、アザミウマ類、落葉病、すす点病、炭疽病、うどんこ病	キラップフロアブル	2,000倍	7日	2	2	50ml	キラップフロアブル	2,000倍	7日	2	2	50ml	・周辺に水稲がある場合は農薬が飛散しないよう十分注意すること! ・9月中旬以降のカキハタムシ対策として薬剤散布する場合はテルスターフロアブルの6,000倍(3日/2回)とする。	
			トップジンM水和剤	1,500倍	前日	6	6	66g	キラップフロアブル	2,000倍	7日	2	2	50ml		

※ボルドー体系では、2-10式ボルドーに替えて、1Cボルドー412の50倍でも良い。(散布直後の降雨が懸念される場合は1Cボルドーの使用は避ける。※銅の薬害のおそれあり)

## 薬剤散布にあたっての注意事項

- (注1)  
 農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJAまたは関係機関にご相談ください。  
 周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。(柿以外の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう。)  
 周辺にタバコがある場合は、対象農家と事前に協議してください。  
 農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守しましょう!  
 散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。  
 防除は生育や病虫害の発生予察に注意して適期に実施しましょう。  
 圃地環境(防風樹の整備・草刈りの徹底)をよくしましょう。

- (注2)  
 薬剤混用の順序(水和剤混用の場合) 水 → 展着剤 → 殺菌剤 → 殺虫剤  
 薬剤混用の順序(乳剤混用の場合) 水 → 乳剤  
 薬剤混用の順序(フロアブル剤、水和剤混用の場合) 水 → フロアブル剤 → 水和剤  
 ※ボルドー液の場合はボルドー液調整後に展着剤→殺虫剤の順に混用しましょう。

(注3)  
 展着剤使用基準と上記「備考欄」に記載された農薬使用基準

展着剤・農薬	展着剤及び農薬名	倍率	100リットルあたり使用量	収穫前使用時期	総使用回数
展着剤	ブレイクスルー	5,000倍～10,000倍	10ml～20ml	—	—
	ネオエステリン	5,000倍～20,000倍	5ml～20ml	—	—
殺虫剤	アブロード水和剤	1,000倍	100g	開花期まで	2回
	オルトラン水和剤	1,500倍	66g	45日	2回
	サムコルフロアブル	5,000倍	20ml	前日	3回
	スプラサイド水和剤	1,500倍	66g	30日	3回
	テルスターフロアブル	6,000倍	16ml	3日	2回
	モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	25g	前日	3回

## 柿農薬混用の事例

使用回数	使用回数														
	2	2	2	2	3	3	3	3	3	4	2	2	2	2	3
殺菌剤	殺菌剤														
	アブロード水和剤	オルトラン水和剤	キラップフロアブル	コテツフロアブル	サムコルフロアブル	スタークル顆粒水溶剤	スプラサイド水和剤	スミチオン水和剤	スミチオン乳剤	ダイアジノン水和剤	テルスター水和剤	テルスターフロアブル	トクチオン水和剤	トクチオン乳剤	MR.ジョーカー
—	○							×	△	▲			○	●	
5	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

●: 混用して問題なかった。 ○: 使用直前の混用なら問題なかった。 △: 物理性、効果低下などの点で問題がある。  
 ▲: 葉害の点で問題がある ×: 混用できない 空欄: 標記するに足りる知見や経験に乏しい。